

新日本石油株式会社

2008年度 第2四半期(中間期)決算概要

取締役 常務執行役員 経営管理第1本部長
平井 茂雄

2008年10月29日



新日本石油
Your Choice of Energy

I. 08年度上期の事業環境および取組み

<08年度上期の事業環境①>

原油価格



07年度上期：一本調子で上昇

08年度上期：急上昇から急落へ

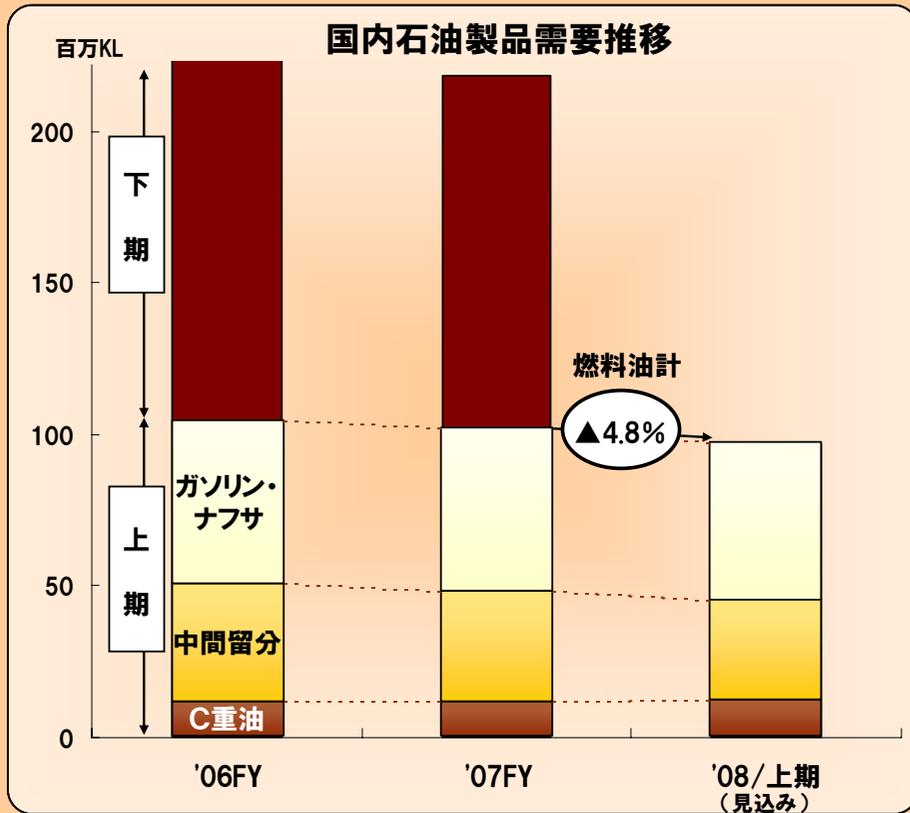
・上期平均価格としては約50\$/B上昇

07年度上期 → 08年度上期
70\$/B → 121\$/B

<08年度上期の事業環境②>

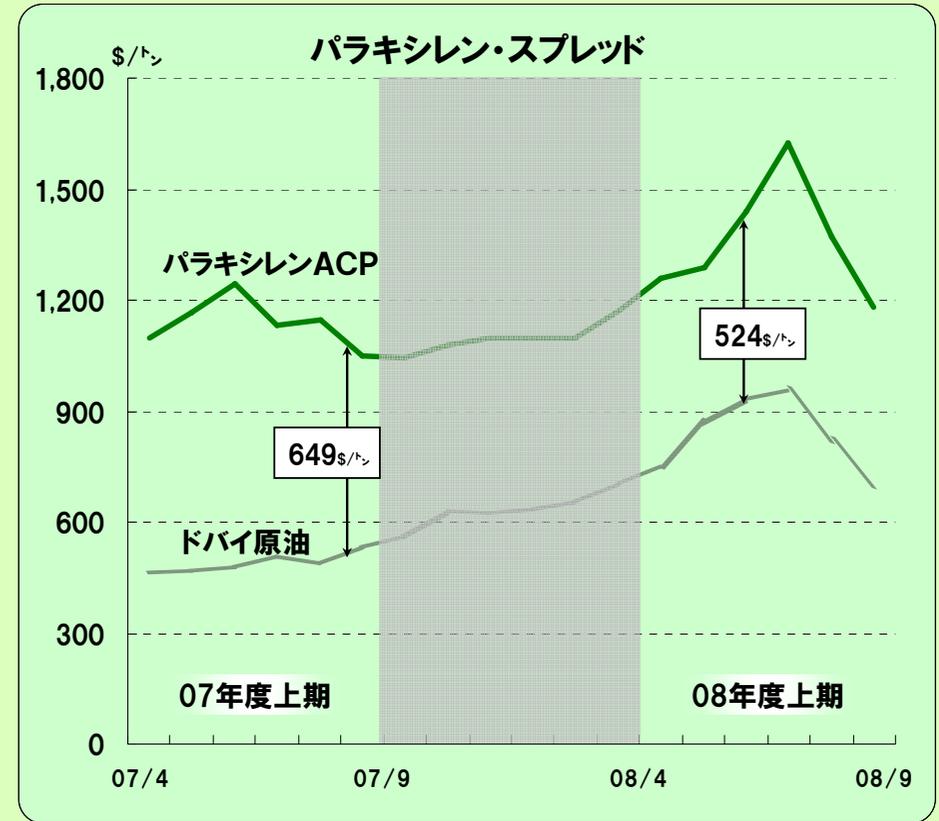
石油・石油化学製品事業環境

—石油製品事業—



・加速する国内石油製品需要の減少

—石油化学製品事業—



・スプレッド悪化

<08年度上期の取り組み①>

1. 石油精製・販売事業

九州石油との統合

2008年 7月 合併契約(新日石・九石)および
分割契約(新日精・九石)を締結

8月 九石を新日石の100%出資子会社化

10月 経営統合(合併・分割)

- ・統合シナジーによる石油精製・販売事業の競争力強化
- ・アジア・環太平洋地域での事業拡大(輸出拡大)

九州石油

<販売>

- ・燃料油国内販売シェア 2.5%(07年度)
- ・605SS(08年9月末)

<精製>

- ・精製能力 16万バレル/日
- ・パラキシレン生産能力 21万トン
- ・IPP契約電力 13.7万KW

大阪製油所 CNPCとの合併化

2008年 5月 「石油精製合併会社の設立に関する
意向書」を締結

10月 社内に準備組織を設置

<大阪製油所>

- ・精製能力 11.5万バレル/日

<08年度上期の取り組み②>

2. 石油・天然ガス開発事業

マレー半島沖海上鉦区取得

日本ノースシー石油の株式取得

3. 新規技術型事業

家庭用燃料電池(エネファーム)生産用の新工場建設

設備投資:20億円(2008年~2009年)

生産能力:2010年度に約1万台/年、2015年度に約4万台/年

三洋電機と薄膜太陽電池共同出資会社の設立協議開始

設立時期:2009年4月を目標

薄膜太陽電池事業の早期事業化へ

<下期に向けて>

石油精製・販売事業

卸価格の新体系への移行

移行期日:2008年10月1日出荷分より

対象油種:ガソリン、灯油、軽油、A重油

概要:週次改定による国内石油製品卸マーケット連動方式

透明性の高い価格体系構築へ

日本海石油の原油処理停止

2009年 3月 原油処理停止

7月 オイルターミナル化

<富山製油所>

・精製能力

6万バレル/日

II. 08年度第2四半期決算概要

<08年度第2四半期決算概要>

	07年度 第2四半期累計 (実績)	→	08年度 第2四半期累計 (実績)
原油価格 (\$/Bbl)	66.5	+50.7	117.2
為替レート (円/\$)	119.7	▲14.3	105.4
ジョイント等除き 販売数量 (万KL)	3,279	▲14	3,265
	(億円)	(億円)	(億円)
売上高	33,358	+9,478	42,836
営業利益 (在庫影響)	1,427	▲562	865
(在庫影響除き)	(772)	(+19)	(791)
	(655)	(▲581)	(74)
営業外損益	165	▲448	▲283
経常利益 (在庫影響除き)	1,592	▲1,010	582
	(820)	(▲1,029)	(▲209)
特別損益	▲38	▲106	▲144
当期純利益	848	▲646	202

在庫影響
+1,887
棚卸資産
簿価切下げ
▲1,096

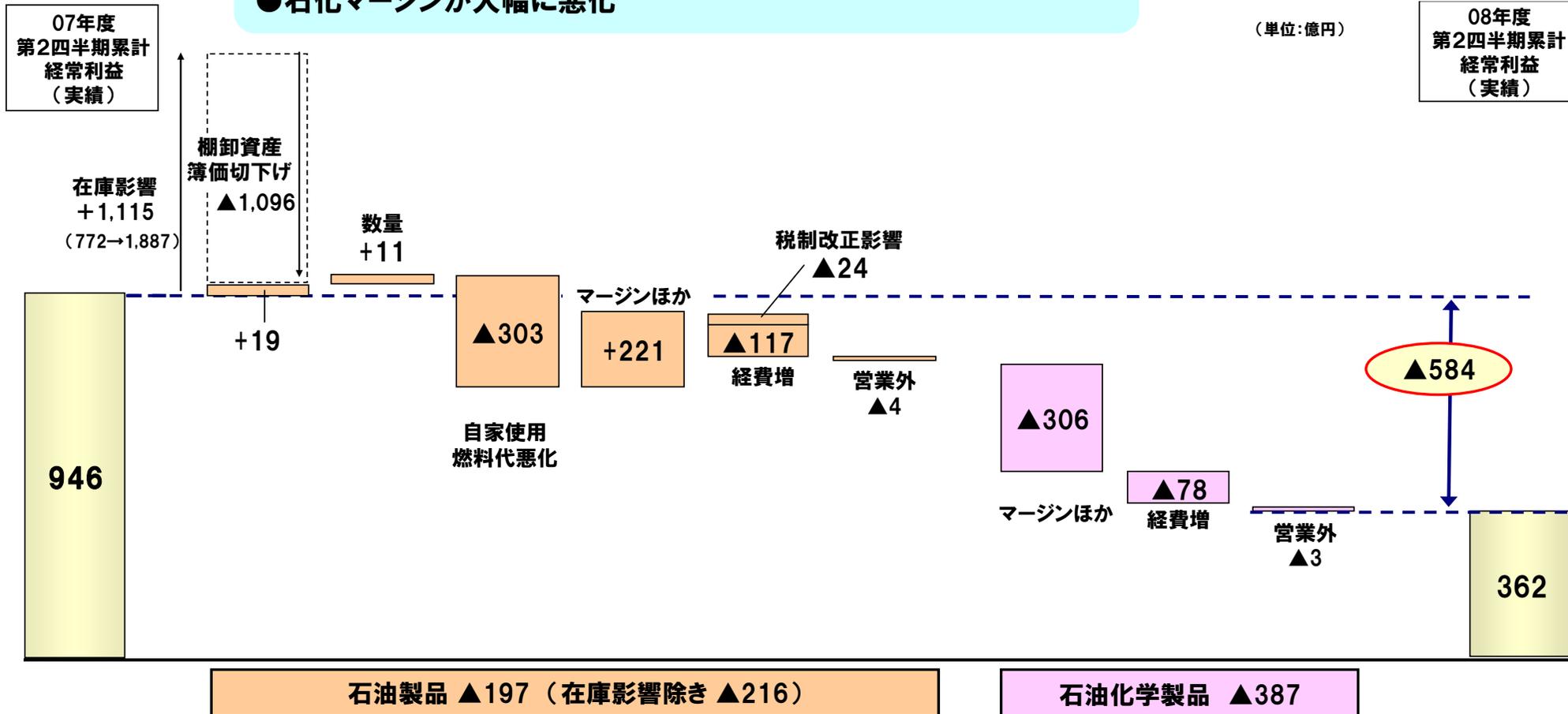
< 08年度第2四半期決算 セグメント別経常利益の増減 >

	07年度 第2四半期累計 (実績)	→	08年度 第2四半期累計 (実績)
	(億円)	(億円)	(億円)
I. 石油精製・販売	946	▲584	362
うち 石油製品	673	▲197	476
(在庫影響)	(772)	(+19)	(791)
(在庫影響除き)	(▲99)	(▲216)	(▲315)
うち 石油化学製品	273	▲387	▲114
II. 石油・天然ガス開発	619	▲400	219
III. 建設・その他	27	▲26	1
経常利益計	1,592	▲1,010	582
(在庫影響除き)	(820)	(▲1,029)	(▲209)

<08年度第2四半期 石油精製・販売部門 経常利益増減(前年同期比)>

-経常利益減(▲584億円)のポイント-

- 原油代上昇に伴い、自家使用燃料代が大幅に悪化
- 石化マーzinが大幅に悪化



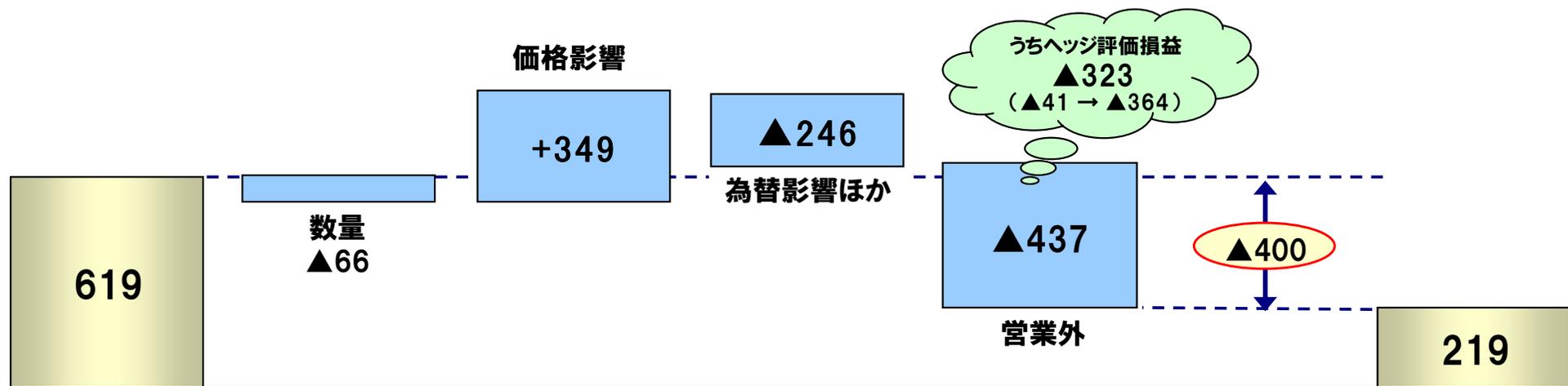
<08年度第2四半期 石油・天然ガス開発部門 経常利益増減(前年同期比)>

-経常利益減(▲400億円)のポイント-

●販売価格上昇があったものの、数量減や営業外損益の悪化により減益

07年度
第2四半期累計
経常利益
(実績)

(単位:億円)
08年度
第2四半期累計
経常利益
(実績)



III. 08年度決算見通し概要

<08年度損益見通し概要>

	08年度(見通し) (7月公表)	→	08年度(見通し) (今回)
原油価格 (\$/Bbl)	111.8	▲14.0	97.8
為替レート (円/\$)	104.7	+0.6	105.3
ジョイント等除き 販売数量 (万KL)	7,000	+166	7,166
	(億円)	(億円)	(億円)
売上高	89,200	▲700	88,500
営業利益 (在庫影響)	1,970	▲2,090	▲120
(在庫影響除き)	(900)	(▲1,630)	(▲730)
	(1,070)	(▲460)	(610)
営業外損益	30	+140	170
経常利益 (在庫影響除き)	2,000	▲1,950	50
	(1,100)	(▲320)	(780)
特別損益	▲170	▲40	▲210
当期純利益	950	▲1,180	▲230

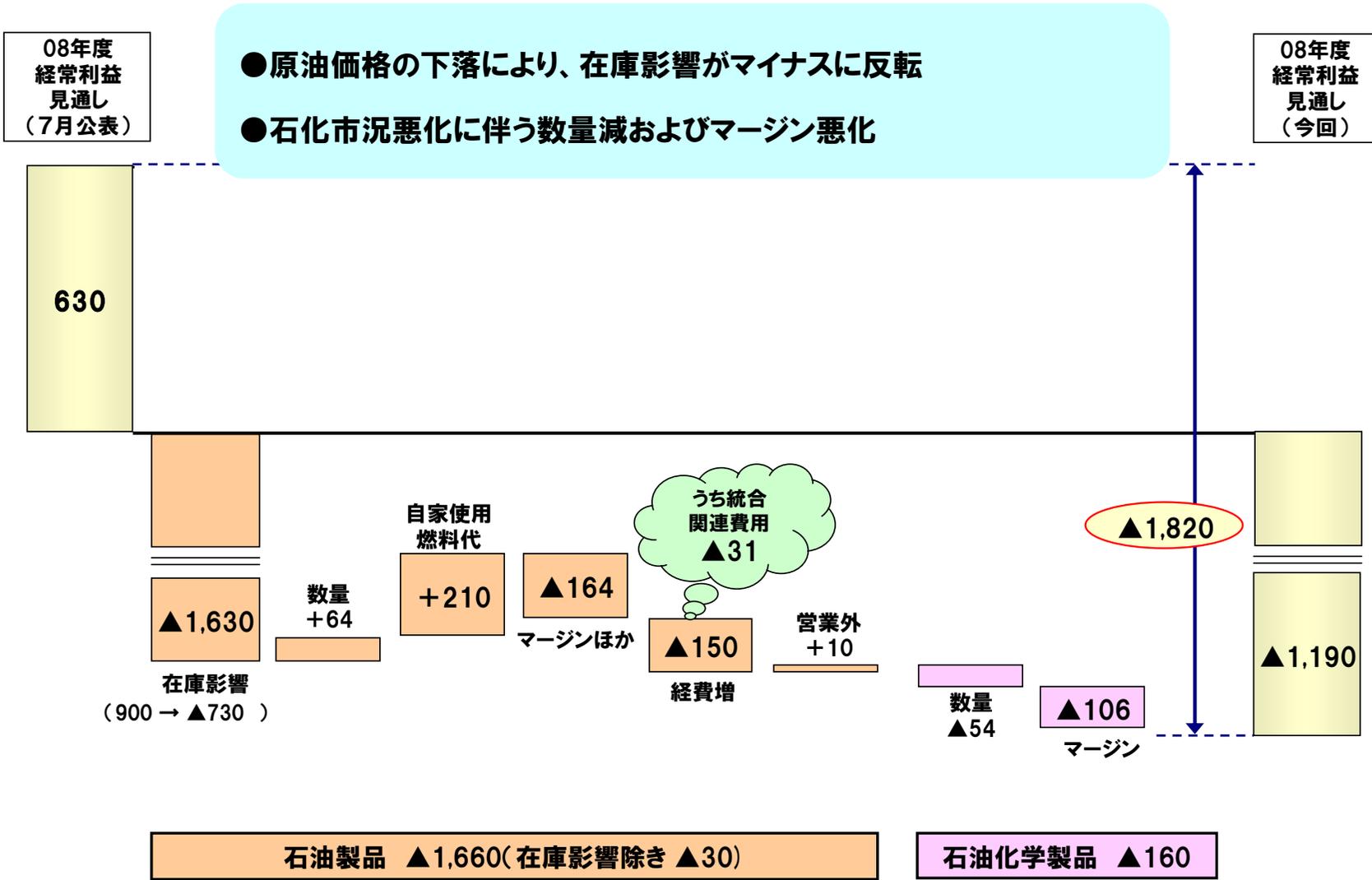
うち九石下期分
330

<08年度 セグメント別経常利益見通しの増減(7月公表比)>

	08年度(見通し) (7月公表)	→	08年度(見通し) (今回)
I. 石油精製・販売	(億円) 630	(億円) ▲1,820	(億円) ▲ 1,190
うち 石油製品	750	▲1,660	▲ 910
(在庫影響)	(900)	(▲1,630)	(▲730)
(在庫影響除き)	(▲150)	(▲30)	(▲180)
うち 石油化学製品	▲ 120	▲160	▲ 280
II. 石油・天然ガス開発	1,250	▲120	1,130
III. 建設・その他	120	▲10	110
経常利益計	2,000	▲1,950	50
(在庫影響除き)	(1,100)	(▲320)	(780)

<08年度 石油精製・販売部門 経常利益見通し増減分析(7月公表比)>

-経常利益減(▲1,820億円)のポイント-



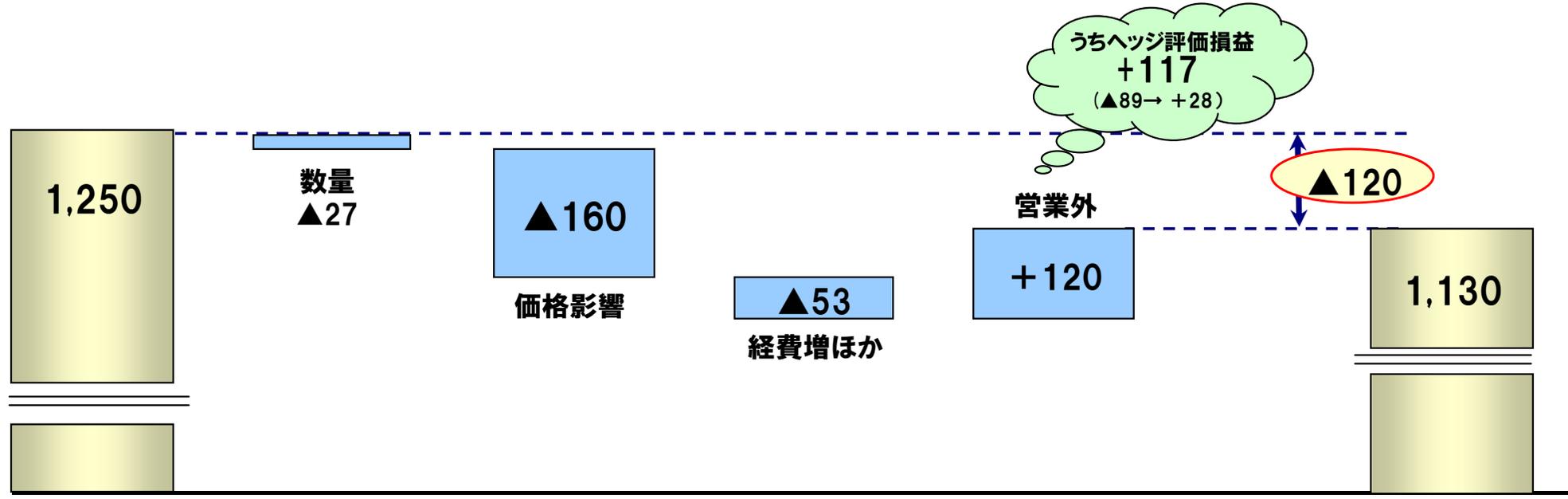
<08年度 石油・天然ガス開発部門 経常利益見通し増減分析(7月公表比)>

-経常利益減(▲120億円)のポイント-

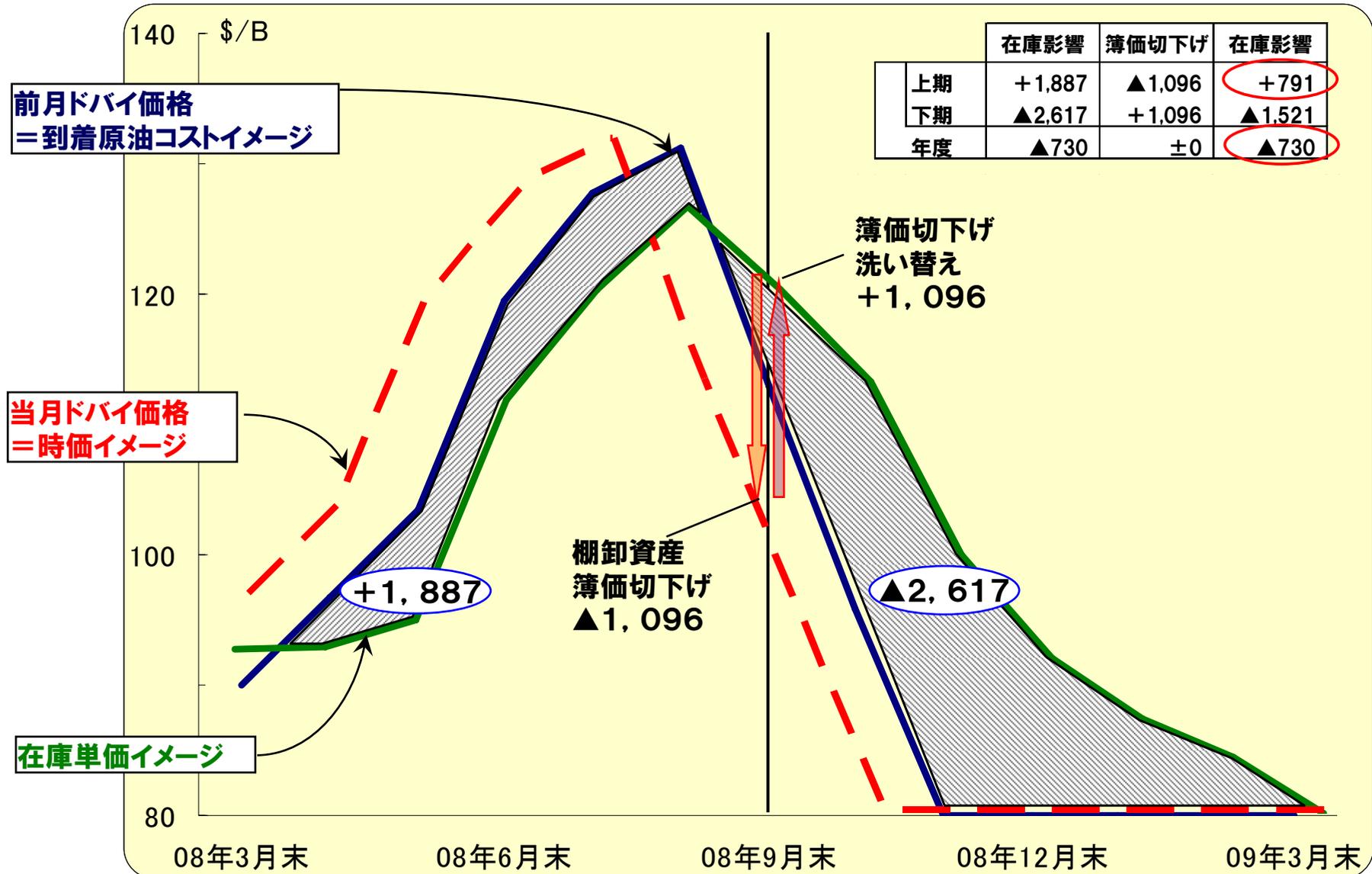
08年度
経常利益
見通し
(7月公表)

●原油価格の下落により悪化

(単位:億円)
08年度
経常利益
見通し
(今回)



<参考> 2008年度 在庫影響および棚卸資産簿価切下げ(イメージ)



<08年度上期 油種別販売数量 (単体)>

油種	07年度 上期実績	08年度 上期実績	増減率 (%)
揮発油	711 万KL	667 万KL	▲6.2 %
(ハイク)	(122)	(104)	(▲14.2)
(レギュラー)	(582)	(556)	(▲4.5)
ナフサ	84	91	+8.1
ジェット	63	59	▲7.4
灯油	163	134	▲17.9
軽油	415	408	▲1.7
A重油	280	252	▲10.2
C重油	348	398	+14.7
(電力C重油)	(193)	(271)	+40.5
(一般C重油)	(155)	(127)	▲17.6
内需燃料油計	2,064	2,009	▲2.7
原油	151	148	▲1.6
潤滑油・特品	128	121	▲5.3
化学品	185	182	▲1.7
LPG・石炭	398	363	▲8.8
輸出燃料油	353	442	+25.4
ジョイント等除き計	3,279	3,265	▲0.4
ジョイント等	883	855	▲3.2
総計	4,162	4,120	▲1.0

<見通しに関する注意事項>

本資料に記載されている当社の業績見通し、経営目標等のうち、歴史的事実でないものにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営陣が判断したものであります。

実際の業績等につきましては、さまざまな要素により、これらの業績見通し等と大きく異なる結果になりうることをご承知置き下さい。従いまして、業績見通し等に全面的に依拠して投資判断を下すことは、控えていただきますようお願いいたします。

なお、実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、原油価格、石油・石油化学製品の需要動向および市況、為替レートならびに金利の動向が含まれますが、これらに限定されるものではありません。